

講義名	国際経営特論			授業形態	
担当教員	潘 志仁	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

### 主題と概要

国境をこえて行われる経営、あるいは国境をまたいで行われる経営を国際経営といいます。この意味の国際経営が一番よくみられるのは、多国籍企業においてであります。そのために本講義では、主として世界の多国籍企業を取り上げます。講義の前半部分では、世界の多国籍企業の国際経営の実際の動きや将来の課題などを中心にしているが、後半部分では、主として多国籍企業の国際経営に関する重要な理論を取り上げます。

### 到達目標

- (1) 日本企業の国際経営活動の実態と問題点を把握できるようになります
- (2) 国際経営の基本的な理論を理解し、説明できるようになります。
- (3) 国際経営の理論を踏まえて、自らの研究テーマに対する考察をより深めることができるようになります。

### 提出課題

中間レポートと期末レポート

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

受講生が一人あたり2回発表し、2回コメントを担当してもらいます。最後に担当教員が発表内容の講評・解説を行います。

### 評価の基準

発表20点  
コメント20点  
中間レポート30点  
期末レポート30点

### 履修にあたっての注意・助言他

受講生が授業に出席し、発表し、そしてコメントすることが求められる

### 教科書

### 参考図書

### その他

教科書 『国際経営第4版』有斐閣（インターネット上で、比較的低価格で入手できます）  
受講生は必ず教科書を持参のうえ、出席ください。  
授業7回目以降の教材は、配布します。

### 授業計画

1. 国際経営とはなにか、多国籍企業の経営の特徴
2. 多国籍企業と国際経営戦略
3. 国際マーケティングと海外生産
4. 技術移転・海外研究開発と国際経営マネジメント
5. 新興国市場と日本企業、サービス企業の海外進出
6. 国際経営の発展期
7. 分業生産性と比較優位
8. 多国籍企業のプロダクト・サイクル・モデル
9. 多国籍企業行動の分析フレーム
10. 多国籍のプロセスとグローバル構造への展開
11. 提議とグローバル戦略
12. 制度理論と多国籍企業
13. 多角化した多国籍企業のマネジメント
14. 超国籍企業のつくり方と管理法
15. まとめ

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

研究発表のレジュメを読み込むには、3時間が必要になり、研究発表や課題を復習するにも、3時間が必要になります。つねに「なぜ、そうになっているか、ほんとうかな、おかしいぞ」と疑問を持ちながら書物を読むクセをつけてください。

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

アジアの中で日本企業の進路をビジネス面から考えます。本講義を通して、グローバルな視点から日本人の場合は日本、留学生の場合は母国を考えるとすることができるようになれば良いと思います。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

オーラル・ラーニングを目指します。これにより、オーラルに学ぶことを身に付けます。

### 実務経験の有無及び活用

### 備考